

# 三小 育友会報

発行 育友会  
編集 文化部

## 「あすへのあゆみ」

育友会長 藤田 実

会長二年目にして反省は多く、未来の展望と夢また多し。私たちが子どもをとりまく育友会、学校、地域社会、三つの歯車がよくかみあって、三小の教育の軸が回転する。この軸に、この歯車に歪みがないか、磨減がないか、注油が必要でないか、これを展望し夢を描きたい。

子どもの学力、魂の教育、学校でよくその実情を聞く。堂々とした先生方の営みをみて、心から声援し感謝の念でいっぱい。安全教育・保健衛生、次の世代のたくましい、健全なからだも学校でこそ創造されていく。乏しきを分ち、無から有を創造し、廃物を活用する諸設備、何とかしてあげたい。

## 本校教育のめざすもの

学校長 松本 巖

私と、再びまいりまして、お世話になっております。どうぞ

よろしく願っています。本年、本校は創立九十周年を迎え、ますます名声を博しておりますことは、ひとえに皆様の御協力の賜ものでありまして、厚く御礼申します。

しかし、ここで本校としては静かに奥底深く見つめて、真実の教育の方向をめざしたいと考え、次のような教育目標をたてました。

1. 自主的に健康安全に留意する能力と態度を養う。
2. 自主的な生活態度を育成する。
3. 困難に屈しない強い意志と志と実践力を養う。
4. 人間性をたつとび、協調性に富む心性を培う。

5. 勤労と責任を重んずる精神をかん養する。  
6. 真理を探究し、合理的な判断と豊かな創造ができるようになる。

7. 郷土国家を愛し、親光都市の市民としての生活態度を身につけさせる。  
学力は孤立して向上するものでなく、健康と魂の上に建築されるものだろうと思えます。

本地域は、最も交通ひんぱんな地域、安全教育の徹底を期したいものです。人は自らが事に対決してピンチをのり越えてこそ伸びるものであり、自主的な生活態度が総ての学習の基盤だと信じます。安穩な時はかりでない人生において困難に屈せず

## 本校創立九十周年

第三小学校の創立は明治七年六月一日、山下直次郎先生を校長として、児童五八名で、芳州小学校(舟津部)と小學校(深部)として生まれました。爾來歴代校長十九代、卒業生二二五〇名を数えております。学校のあつた場所は、今の蛭子町竹本屋酒店付近から広馬場と移り白山下になったのは、明治四二年で、今の鉄筋コンクリート新校舎の完成は昭和三年であります。

この間、各種表彰を受けたこと十五回、最近では昭和三四年に、ソニー株式会社の小學校理科振興資金百万円に入賞賞し、昭和三十六年には、県下ではじめての天皇皇后両陛下の御視察を受けるに至ったのであります。本年、九十周年をむかえるに当り、輝く歴史をよるこぶとともに、さらにいっそうの発展を祈念して、九十周年記念事業を思い立ったわけでは

民主主義の根幹である人間の尊重、生きぬくとりである勤勞や、急速に進んでいる世界に適應していくための真理の探究や合理的判断、小市民的な幸福のみ醉つことなく、郷土を愛し國を愛する精神の啓発はきわめて必要だと信じてかかげた目標です。簡単に目標をかかげた根柢を申し上げましたが、育友会の皆様の深い御理解をいただいた、ともに携え、子どもたちのために心身を傾倒して精進したいと思っておりますので、どうぞ、絶大なる御協力のほどをお願いいたします。紙面の都合で意をつくしませんが、機会があらましたら、くわしくお話ししたいと思います。おせわになります。

今まで育友会、学校の各種会合を重ねた結果、天皇皇后両陛下御視察記念碑の建立、歴代校長の写真の作製、正門石段入口に交通安全門の設置、安井戸遊業正しく美しいことばの運動」を実施しようではないかということになり、最終的に代議員会の決議をまつ段階になっております。物心両面にわたり、皆様に御迷惑をおかけする「こと」になります。記念事業の意義を御理解いただきまして、絶大なる御協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

# 研修旅行報告

## の全体としての報告

文化部長 谷 光風

六月十五日(土)六時二十分  
出発、十八時二十分帰着。父母  
側百十八名、学校側七名、計百  
二十五名参加。個人負担三百円  
育友会補助金を九千五百円の  
経費で、島鉄貸切バス二台によ  
り、福岡県柳川市の柳河小学校  
城内小学校、昭代第一小学校の  
三校および久留米の月星靴工場  
を見学してきました。

実施の細目については、報告  
書をまとめて学校に備えておき  
ますから、御希望の方はそれに  
よってお調べいただくことにし  
て、ここには今回の旅行団総務  
としての立場からの感想・二三  
をのべて報告にかえさせていた  
だきます。

① 行事の自主的運営というこ  
とと、一人一人の見学の効果を  
たかめるために、旅行団の組織  
化と事前の勉強会とを計画した  
のですが、時日に余裕がなくて  
今までと違った組織について、  
皆様によく知ってもらうことが  
パンフレットの配布だけでは不

十分だったと思います。  
また勉強会は私の努力不足で  
文化部だけに止まり、他の部に  
及ぼすことができませんでした。  
来年度の方には、今回のやり方  
の長短を参考に、是非もっと充  
実した研修旅行の実施を願いま  
す。

② 帰路のバスの中での反省会  
については、遊山気分にならず  
研修旅行らしくてよかったとい  
う声と、疲れてはいるし、考え  
もまとまっていない上に、車窓  
からの見学もおちおちできない  
から止めようという声と半々に  
聞きました。

各町内の参加者の選出方法が  
まちまちであることにも、何か  
問題がありそうな気がしました。  
六月二十一日の反省会は肝心の  
何をとりあげ、どうとりいれる  
かというところまでもっていか  
なくては、残念でした。この点は  
今後あらゆる機会に皆様との話  
し合いの上で考えたいと思いま  
す。

## ◎城内小について

文化部 龜本忠晴

学士村とよばれたくらい昔か  
ら教育熱心な地域を校区にもつ  
学校で、現在は保護者の六十五  
パーセントがサラリーマンとい

い、育友会運営上大へん都合の  
よい環境です。

学校の音楽設備は、ピアノ一  
台、オルガン十台、レレコー  
ド二十枚などで、決して多くは  
ありませんが、一方、各家庭に  
ピアノがあるのは五パーセント、  
オルガン三十五パーセント以上  
の普及で、児童の音楽教育に大  
きな役割りを果たしている点に  
父兄の音楽教育に対する熱心さ  
を感じさせました。

父兄の音楽グループでは、各  
二十名くらいの二つのコーラス  
グループがあり、他の中学校・  
高校の音楽の先生の援助も受け  
て、相当盛んなようです。また  
器楽研究会もあります。

一般教育方針で特殊と思われ  
る点は、小学校において、すで  
に上級学校進学を目的としたよ  
うな方針がとり入れられている  
傾向があることです。

城内小学校で特に力を入れて  
いるのは、健康教育で、各クラ  
スに健康観察員がいて、クラス  
の健康状況をグラフに記入し、  
その結果は児童・父兄・校医・  
先生の四者からなる保健会に持  
ち出して討議し、児童の健康向  
上に全校をあげて努力していま  
す。その結果、県下一の健康優  
良校になっています。  
施設としては、昭和三十一年  
に、二十五メートル、五コース

のプールを、経費百七十五万円  
を投じて建設している点が、本  
校ではみられません。その他  
は殆んど本校が優れていました。  
ただ、清掃の徹底していること  
には、感心しました。

## ◎柳河小について

生活部 木下睦子

柳川市の中心部にある柳河小  
学校は、字を覚えておわかりのよ  
うに市と学校では「かわ」の字  
が違ふ。市制をしいた際に市の  
方が柳川となり学校の方は古く  
歴史を守って河となったさうで  
ある。

商工業三七％、専給生活者四  
五％、その他一八％、去年まで  
は商工業の方が多かったさうだ  
が、最近専給生活者の方がふえ  
る傾向である。

中心部の学校にしては校舎が  
古く貧弱、運動場もせまく小さ  
な学校でお世辞にもいい環境で  
勉強しているとはいえない。し  
かし三年後には鉄筋三階建の校  
舎が完成することが決定されて  
おり、施設はぐんと向上される。  
生徒数九三五名、二三学級のこ  
の学校の特徴は、視聴覚教育と  
PIAとは別に独立した母親学  
級の財源および活動である。  
視聴覚教育の設備はさすがで

三小の一・四二〇名テレビ三台  
に対し、ここは一五台、今年度  
一八台にふえる予定で、社会、  
理科教育はテレビに徹底してい  
る。母親学級は、PIAの全体  
予算三四万に対し四三五万と  
大きい。収入源は一人一〇円の  
会費七万五千、簡易保険団体取  
扱手数料三一万、年一回の廃品  
回収五万で、このうち実に三〇  
万の大きなものが学校に寄付さ  
れ、これによって学校の施設・  
設備・器具は整えられる。年々  
生徒数が減り学校費の窮乏な折  
に、この果たす役割りは大きい。  
校舎の新築と、この母親学級に  
よって整えられる教育環境は將  
来目をみはるようによび展するだ  
ろことがうかがえる。

現在をみて、三小がすべてに  
いいと自己満足することなく常  
に前進することを望みたい。  
◎昭代第一小について  
文化部 松村 翠  
広々とした田んぼの真中に、  
ポツンと建てられた古ぼけた校  
舎。これが昭代第一小学校であ  
った。明治二十五年創立、今年  
で七十余年の歴史をもっている。  
いくたびか増築または改築され  
雑然とした感じであるが、この  
古い校舎を、何とかして美しく

明るく学びやすいものにしてしようとする、みんなの永年の努力のあとがハッキリ感じとられた。児童数六七八名、学級数十七、一年生二学級、他は各学級三学級、先生は二十六名。

児童の父兄は七割が紳農家、あと三割も半農その他で、殆んどが農業関係という気持の通じ合った集まりで、「昭代校は自分たちの学校だ」という意識が強い。学校への協力も積極的で、年一回の総会はこの地方の行事として重きをなし、出席率も七〇%以上という。

P.T.A.の事業としては、保健体育の指導、環境緑化の推進その他が重点としてとりあげられている。特に体育の面では県下一つというところであるが、残念ながら参観できなかった。

環境緑化の推進では、私どもが学校を訪れて最初に目についたのが、このりっぱな緑の植木であったが、古い校舎と新しい運動場が、広々とした緑に囲まれて、長い歴史に一段と光を添えている感じであった。また、内庭のたんせいこめた沢山の盆栽と芝生など、どこを見ても緑色の美しさが目にしみた。

こうやって地方の特色を学校の教育やP.T.A.の活動の中に積極的にとり入れてあることが、特に印象的であった。

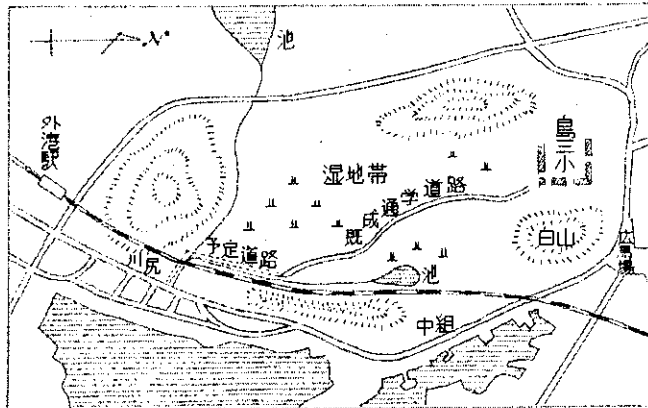
### 施設部だより

人間のからだに病気があるように、学校にも施設設備の上でいろいろな病気があります。施設部はその病気をなおしてやろうというところで、本年度事業計画には十二項目がとりあげられています。育友会が直接経済的な後援をすることには、重要な度合いにもありますが、自ら限度もあることです。

そこで、本年度は特に次の項目に努力したいと思っております。  
 ・安全通学道路の延長工事・突井戸浚渫・校地境界線の明確化  
 ・校舎雨漏り修理・第三校舎の屋根塗装・電気配線と教室の照明施設・校地南側の柵修理。このうち突井戸の浚渫は九十周年記念事業に取り上げられています。他は全部市でやってもらいたいと思っています。

安全通学道路の延長工事については、七月三日の常任委員・施設部合同会において、市当局に、育友会長、白山地区町内会長連絡協議会長、白山婦人会長の名をもつて請願することになりました。請願には紹介議員が必要ですから、白山地区選出の若松七五郎、山本富治、荒木信雄、御厨米吉、小西弘恵、池田

清徳、片山正、元島和里議員さんの承諾を得たいと思っております。幸にして白山地区は八名の議員さんを持ち、しかも団結して事に当たっていただくということ、大変心強い限りであります。よろしくお願いしたいと思います。その他の項目については、市の予算の都合もあり、なるべく早く実現できるように、近く市当局に陳情したいと思っております。みなさん、どうぞ御声援をお願いいたします。



★安全通学道路予定現地略図



### 学校だより

▼花や木の枝を折る子どもも少なくなりましたし、ことばづかいもぜんじよくなり、けんかも少なくなりました。▼本年は、とくにさうじに力を入れています。よほどきれいなになりましたが、あとかたづけやしかたが十分ではありません。▼ちりばちりばちに行ってみると、まだ使える鉛筆、スリッパなどが捨てられていることがあります。物資の豊富な世の中になりましたが、無い時のことを思って、節約に心がけたいものです。

●六月二十四日午前七時半頃下川尻町の鐘ヶ江みゆきちゃん(二年生)が、登校しようとして家を出たしゅんかん、新築方面から疾走してきたバイクにはねられ、頭・手・足に重傷がをしまして、深松病院に入院しました。四、五日間は意識不明でしたが、どうやら意識はとりもどしたようですが、まだことばがでません。一日も早く全快されるよう心からお祈りいたします。

●うれしいこと  
 ▼さびしいこと  
 ▼先生と会った時、にっこりはほえんで、あいさつ、えしゃくをする子どもさんが、多くなりました。二三年前まではあまり見られなかったことです。

▼この一学期間、ぬすみが一件もありません。あたりまえのことではあります。これも近年に例のないことです。

▼本年度本校の健康優良児は、審査の結果、六年男子本多宏君、六年女子宮本かよ子さんに選ばれました。



# 会員の声



○ はじめての研修旅行に参加して、会員のみなさんが、大へん熱心に、子どもたちの教育のため、また、教養を高めるために、研修につとめていられることを知り、感心しました。

○ 行く前には、物見遊山のすぎるとか、経費がもったいないなどの声もききましたので、自分で確かめてみたいと思っていました。今年旅行は、そんな心配は全く感じられませんでした。むしろ、帰りのバスの中では、もうすこしゆっくり、くつろいでもいいのではないかと思っています。

○ せっかく貴重時間と、多額な経費を使って実施された旅行ですから、その報告会を、有意義にしたいと思っています。

○ 特に、視察の結果を、三小にどう取り入れるかについて、考えていただきたいと思います。

— 一代議員 —

○ 今まで、仕事の都合で、学校参観日やPTAの諸会合にも、一回も出席しませんでした。今年からはじめて、文化部の一員として、諸会合に出席して感じたことは、家庭教育に重点をおいて、教育してみたいと思っていました。

○ 給食のパンは何とかなりませんか。うちの子どもは、いつも食べ残して、カパンの中におしこんで帰ってきます。

○ 交通事故から子どもを守りましょう。

○ ましょうも笑顔で帰る子どもを喜んで迎えられるように、家庭でも指導しましょう。

— 母 —

子どもたちの言葉がいが、

## 正しいこととは

だんだんよくなってきた感じを受けます。言葉カードの効果が見われたのでしょうか。

美しく正しい言葉を育し、ために、家庭でも、この運動に協力しましょう。

— 父親 —

○ 正しいことはまつかう運動を進めておられます。

○ 正しいこととはどんなことばでしょうか。いろいろありますが、子どもに基本的に正しいことばとして考えさせているのは、

○ 相手によくわかることば、(意味・音聲)

○ 相手にいい感じをあたえることば、(声量・表情)

○ (共通語)、時と場所、相手に応じたことば、(声量・敬語・表情)などを身につけていかなければなりません。

○ 特に話しことばは、子ども一人の努力よりも、集団としての家庭や学校、社会などの全体的協力が必要です。

十年先の豊原市の新しいことはの担い手になることでしょう。学校の、この考え、子どもへのことばに対する意識・感覚を三小PTAでつとめてもりあげようではありませんか。

創立九十周年を期して、ことばの改革はスタートしました。今からより一層子どもへのことばに耳を傾けていきたいと思います。

## お知らせ

○ ことしも楽しい夏休みが訪れてきました。

○ 四十日間の長い休みを有意義にすごさせるため、学校からの諸注意をよく守り、一人の事故者もなく、規則正しい生活ができますように、各家庭で指導してください。

○ 特に、今から心配されます水泳水死事故による悲劇をみないように注意しましょう。

○ すでに、本校二年生の渡辺君が、不幸にも水魔におそわれ、幼いのちをうばわれました。思わぬ事故によって悲しんだり、将来を暗くするようでは大へんです。

○ 渡辺君のめい福をお祈りするとともに、このような悲劇を再度くりかえさないように、十分指導していきましょう。

## 編集後記

○ 育友会報第四号ができましたので、おとどけいたしました。

○ 今回は、先に実施いたしました、研修旅行についてのことを中心に編集しました。

○ なお、研修旅行については、その感想や報告を、多くの会員の方からいただきましたが、紙面の都合で、こちらからお願いたしました。三名の方のものを掲載しました。

○ この会報も、名づけ親が見つけからず、いまだに正式の名前ももたないままに、第四号を発行することになりましたが、みなさんからの「意見」「希望」をどうしおよせただいて、もっともっとりっぱなものにしていきたいと考え、会員の声を聞いて下さいますので、自由に投稿して下さい。原稿の締切り期日は別に決めていませんが、お気づきのときに結構ですから、学校の林田先生までお出しください。ようお願いします。

印刷 東村 進